



↑ 釜石市東日本大震災犠牲者追悼式、遺族代表の前川さん



↑ 東日本大震災物故者納骨堂、ご遺骨5柱、部分骨4柱の供養が行われました



↑ 釜石市追悼施設（常楽寺境内）、献花とともに手を合わせました

↓ うのすまい・トモス広場、灯籠の温かい光で、鎮魂の願いを込めた「いのり」の言葉が浮かび上がりました



釜石市東日本大震災被災者慰霊碑



← ↑ 釜石市東日本大震災犠牲者追悼式



→ 釜石祈りのパーク、犠牲者1,064人のうち、ご遺族の意志が確認できた人など997人の名前を刻んだ慰霊碑（芳名板）に手を合わせました

↓ 釜石祈りのパーク内に設置された、釜石市防災市民憲章碑と鶴住居地区防災センター跡地碑

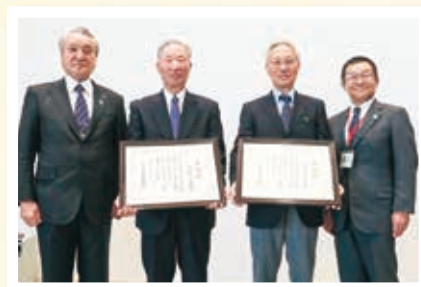


↓ 3月24日、鈴子広場で東日本大震災殉職消防団員顕彰碑の除幕式が開かれました。地震発生直後、大津波警報が発表される中、水門の閉鎖や避難誘導・救出など身をていして任務を遂行し亡くなった8人の消防団員の名前が刻まれました。



震災から8年 鎮魂の祈り 忘れない いつまでも

3月11日、降りしきる雨の中、市内各地で東日本大震災犠牲者の追悼行事が開かれました。多くの犠牲者が出た鶴住居地区では、常楽寺境内にある追悼施設、防災センター跡地に建設された釜石祈りのパークで献花とともに犠牲者の冥福を祈り、昨年、大平墓地公園内に設置された物故者納骨堂では、未だ身元が分からないご遺骨と部分骨の供養を執り行いました。釜石市民ホールTETTOで開かれた追悼式では約500人が出席。遺族代表の前川友子さんが「一人一人がその日を一生懸命に生きていくことが、亡くなった多くの家族への一番の供養になる」と思いを語りました。また、この日、午後2時46分には追悼のサイレンが鳴り、犠牲者に黙とうがさげられました。
※犠牲者1,064人（震災関連死を含む）、行方不明者152人



長年地域会議議長を務めた2人に感謝状が贈られました（中央右 前甲子地域会議議長 安久津吉延さん、中央左 前唐丹地域会議議長 川原清文さん）

若者アクション報告会

3月9日【青葉ビル】

（一社）三陸ひとつなぎ自然学校と釜援隊協議会は、市内でさまざまな活動をしている若者の報告会を開きました。小学生から高校生までの11人が、防災学習や地域コミュニティづくりなどを紹介。震災を語り継ぐ小学生向けの紙芝居制作、北海道胆振東部地震への募金活動、手づくりのおまつりなど九つの報告に、集まった約70人が熱心に耳を傾けました。



それぞれの発表に刺激を受けた「若者」の活動の輪が広がって、広がっていくことが期待されます

釜石・三陸から世界に感謝を届けよう

3月17日【釜石市民ホールTETTO】



虎舞やSLなどをモチーフにした「ありがとう貝画」へ丁寧に貝殻を並べます

三陸防災復興プロジェクト2019の取り組みの一つで、モザイクアートや復興支援への感謝を伝える文章を貝殻で制作。市民ら約130人が床に敷いたシートに、色とりどりに塗られた貝殻を並べていきました。ギネスの記録に挑戦した「一人ひとりに、ありがとう」と「Thank You From KAMAISHI」などの「二枚貝の貝殻で作られた最大の文章」は、公式認定員が厳正に審査した結果、基準とされた1,000枚を超え、ギネス世界記録に認定されました。



1,012枚でギネス世界記録認定を喜び参加者

釜石観光イノベーションワークショップ

3月19日【イオンタウン釜石 イベントスペース】

ユナイテッド・ワールド・カレッジISAKジャパン（長野県）の高校生が、学校のカリキュラムの中で釜石プロジェクトを始動。その中の1つで、ラグビーワールドカップ2019™開催に併せて、外国人観光客数を拡大するための観光ツアーを企画しています。ワークショップには市内中高生51人が参加し、1泊2日のプランを考えました。ISAKジャパンの高校生は「釜石は『人』が魅力。人と触れ合うアクティビティを取り入れたい」とツアーの実施に意欲を見せました。

※20日にはチームスマイル・釜石PITで釜石プロジェクトの報告会も開催されました



ツアー企画として橋野鉄鉱山や海岸の散策をはじめ、インスタ映える食事やお土産までさまざまな意見が出されました



タックル練習ではマスコットが応援

500 Days to Go! 東京2020キャラバンラグビー教室

3月24日【釜石鶴住居復興スタジアム】

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催500日前を記念し、東京2020組織委員会、東京都主催の東日本大震災の被災3県を巡るキャラバンバス「500days号」の車内を公開。車内のピクトグラムから競技名を当てるクイズなどで大会の理解を深めた他、釜石シーウェイブスRFCの選手によるラグビー教室には、大会マスコットの「ミライトワ」「ソメイティ」も参加。釜石と宮古のラグビースクールに所属する約50人の子どもらは、パスやキックを教わりました。